

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

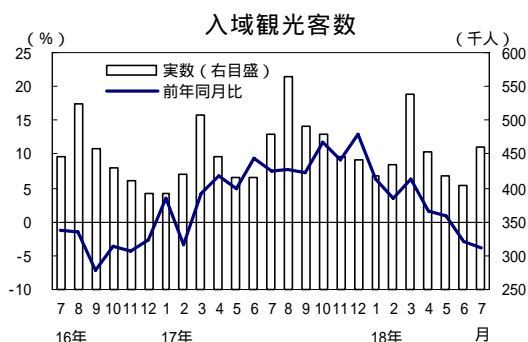
	前回（平成 18 年 5 月）	今回（平成 18 年 8 月）	
住宅建設	減少	増加	

1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、4月は、新規路線及び修学旅行が順調に推移したことから前年を上回った。5月は、新規路線及び修学旅行が順調に推移したことから前年を上回った。6月は、上旬の長雨の影響は微減にとどまったが、定期クルーズ船の運航休止の影響もあり前年を下回った。7月は、相次いで発生した台風と定期クルーズ船の運航休止の影響により前年を下回った。なお、4、5月は過去最高、6、7月も過去2番目を記録し、引き続き高い水準で推移している。

4～6月期における主要ホテルの客室稼働率については、那覇市内ホテルが新規ホテルとの競合激化等から前年を下回ったが、リゾートホテルが好調だったことから、全体では前年と同水準となった。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,534	1,368	1,392	1,276
(前年比)	7.5	11.3	5.4	0.2
ホテル稼働率(前年差)	1.3	4.7	0.3	0.0

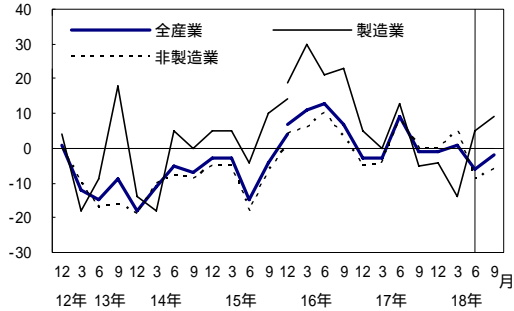
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

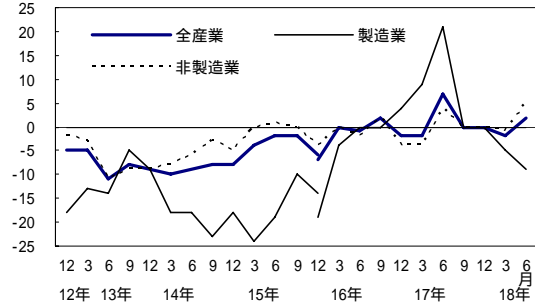
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



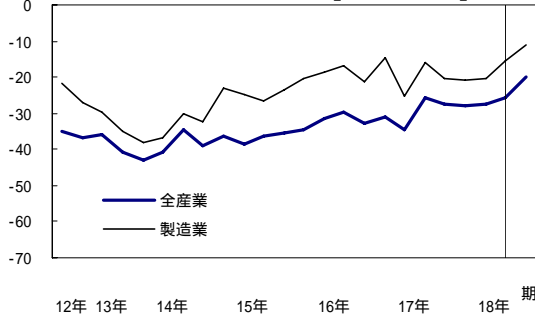
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「新築及びリフォームの1件あたりの単価が高額化している(建設業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「売上は横ばい傾向である。ただし、前年との比較では良くなっている。消費者向け光インターネットサービスの申込数は確実に伸びているが、全体の売上に占める比率が小さいので売上の底上げにはまだつながらない(通信業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

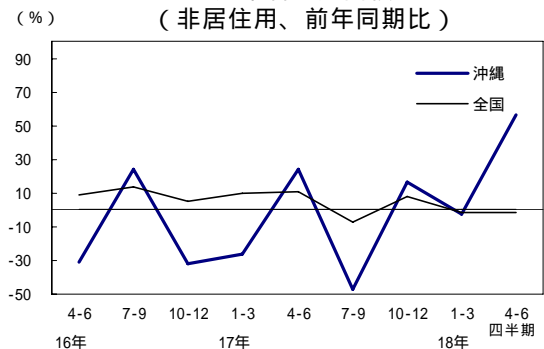
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績	18年度計画
全産業	21.1(1.0)	10.4
製造業	2.8(19.9)	13.1
非製造業	23.6(4.7)	13.7

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

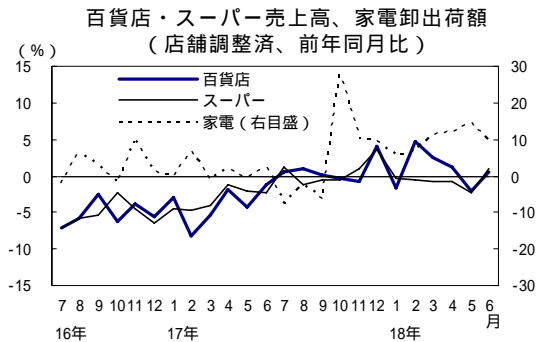
百貨店は、4月は、客足が持ち直しつつある中で催事が好調だったことから、3か月連続で前年を上回った。5月は、下旬の長雨と気温低下の影響により衣料品の販売が減少したことから、前年を下回った。6月は、上旬における天候不順により衣料品等の販売が不振であったが、中旬以降客足が持ち直したことから、前年を上回った。

スーパーは、長雨や気温低下の影響で衣料品が不調だったことから前年を下回った。

家電は、大型量販店の新規出店効果が持続する中で、液晶・プラズマテレビの売行きが好調だったことや洗濯機、エアコンが売上を伸ばしたことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「例年に比べ、観光客は5%ほど増えているが、24時以降の地元客の来客数が減少している(その他飲食[居酒屋])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



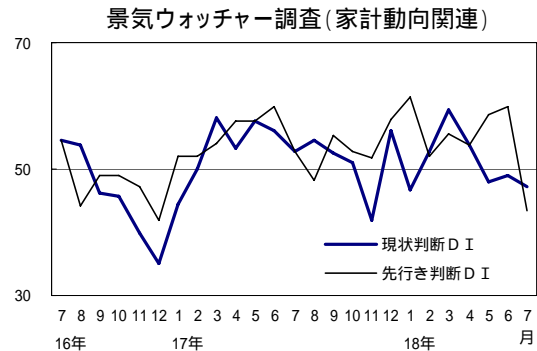
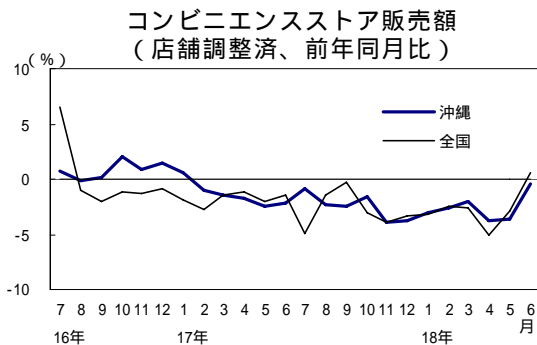
(前年同期比, %)

	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
百貨店	0.6	1.4	1.7	0.1
スーパー	0.2	1.5	0.6	0.7
家電卸出荷額	5.7	15.1	8.3	11.8
コンビニ	1.9	3.1	2.6	2.5
景気ウォッチャー	53.3	49.7	52.9	50.3

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

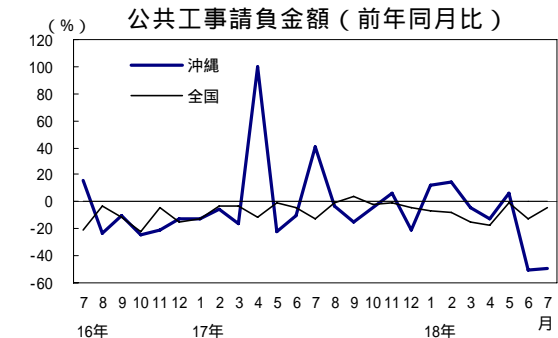
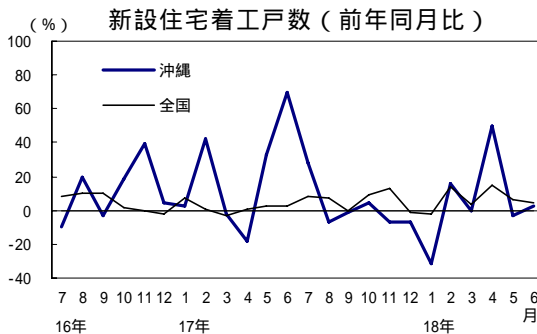
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

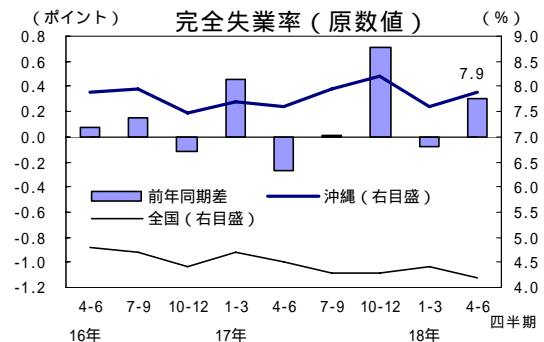
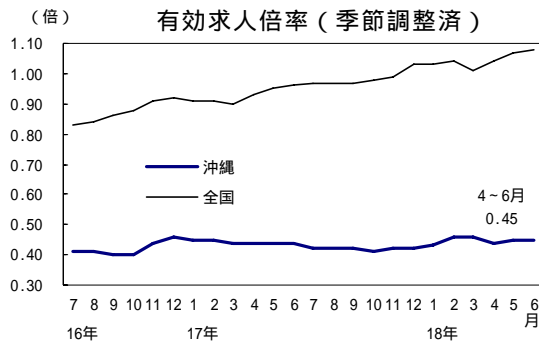


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

「企業からの求人数が確実に増えている。しばらく連絡が途絶えていた複数の企業からの依頼や、代替要員ではなく業務拡大のための補充要員としての派遣も多くなっている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

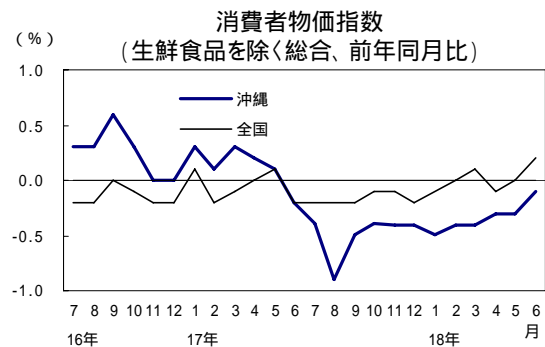
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

7月に件数、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月	18年7月
倒産件数	21	19	14	18	11
(前年比)	16.0	5.0	22.2	18.2	37.5
負債総額	278	36	56	53	39.2
(前年比)	209.9	97.5	20.4	72.2	374.0



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・お中元や飲料の売上が伸びている。また、常連客以外の客も増えている。家族での観光客が多くなっていて、前月、前年よりも売上が増加している(コンビニ)

<先行き>

・台風が無ければ、8月は前年並みの稼働率で推移する。ただし、9月に関しては連休の日取りも悪く、前年を下回るペースとなっている(観光型ホテル)

